

経営比較分析表

新潟県 弥彦村

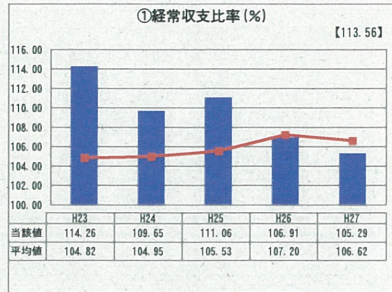
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A8
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	51.86	100.00	3,456

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
8,426	25.17	334.76
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
8,699	28.21	308.37

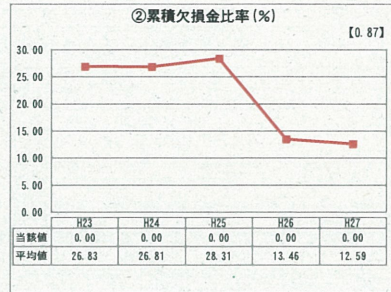
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

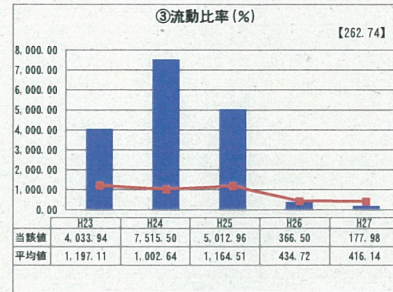
1. 経営の健全性・効率性



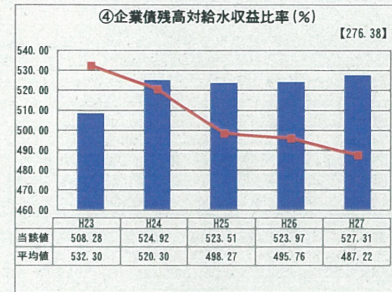
「経常損益」



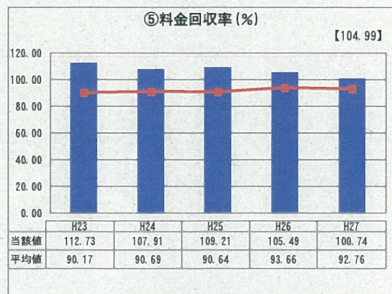
「累積欠損」



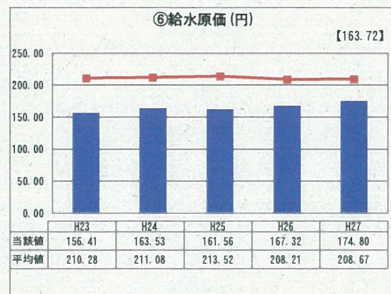
「支払能力」



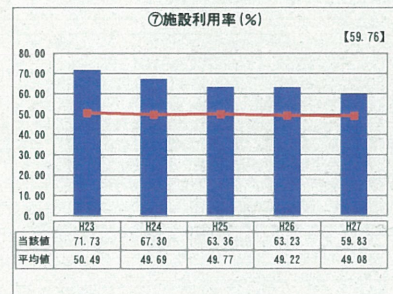
「債務残高」



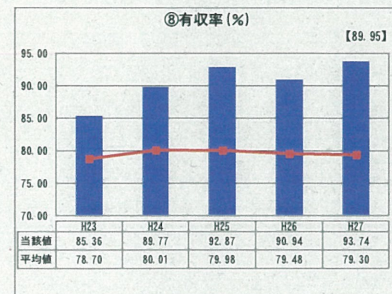
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

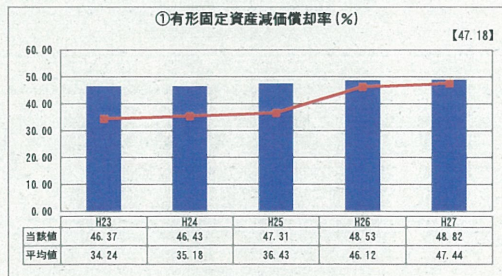


「施設の効率性」

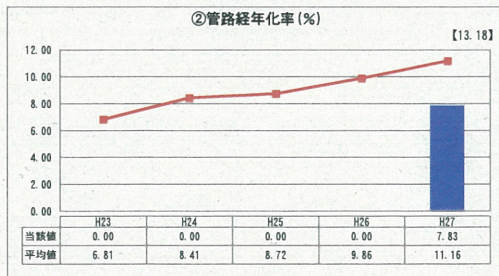


「供給した配水量の効率性」

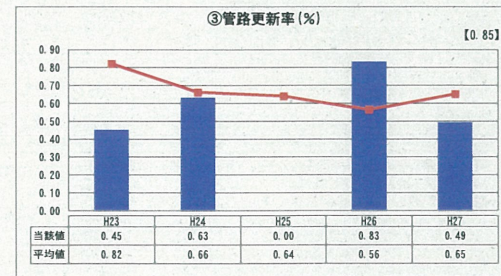
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について
 人口減少や節水志向により使用料の増加は見込めない状況である。
 経営の安定化を目指し広域化も選択肢に入れて検討している。

2. 老朽化の状況について
 老朽管が増加してくるので、ストックマネジメントの策定を急ぎ、事業費の平準化を行う。
 浄水施設の老朽化については、近隣との広域化検討を行い、水道事業の長期安定経営を図りたい。

全体総括
 施設の老朽化に伴い、修繕費・更新工事費が増大する一方、使用水量の減により厳しい経営状況が続くと考えられる中で、近隣との水道事業広域化を視野にいれた経営をしていくしかない。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。